



# 増加する梅毒にご注意を！

## 感染症発生動向速報

(令和2年第23週分・6月1日～6月7日)

### 《インフォメーション》

#### ●梅毒

全国の梅毒の年間報告数は、近年急増しています。患者の年代は、男性では20～50歳代、女性では20歳代に多く、若い世代を中心に梅毒の感染リスクが高まっています(上図参照)。県内では今年に入り、既に14例が報告されています(下図参照)。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。妊婦が感染することで胎児が感染する「先天梅毒」と、性交渉の際、梅毒患者の病変部に接することで感染する「後天梅毒」に分けられます。近年は、異性間交渉による後天梅毒が増加しています。後天梅毒の症状の進行は次の3期に分かれており、**様々な症状の出現と消失を繰り返します**。

**第1期梅毒**：感染から約3週間後に感染部位の皮膚や粘膜に硬結ができますが、2～3週間で消失します。

**第2期梅毒**：約3か月後には全身に赤い発疹(バラ疹)が出現します。この他に発熱や全身倦怠感、関節痛など様々な症状が出現しますが、数週間～数か月で消失します。

**晩期梅毒**：約3年以上経過すると、皮膚や粘膜、骨を中心としてあらゆる臓器にゴム腫と呼ばれるしこりができ組織を破壊します。また心臓血管の炎症や脳や脊髄に病変を作る神経梅毒も出現し、これらが死につながる場合があります。

早期顕症梅毒(第1期と第2期)ではヒトからヒトに感染しやすいとされており、近年はこの早期顕症梅毒の割合が増加しています。感染予防の基本は、感染者との性交渉を避けることです。完全ではありませんが、**コンドームの使用により感染リスクを低下させることができます**。梅毒は抗菌薬による治療が可能な疾患です。性交渉後、いつもと違う症状が現れるなど心あたりがあるときは、早めに医療機関を受診し、検査を受けましょう。また、梅毒に感染した人では、そのパートナーも感染している可能性があります。パートナーも検査を受けることが重要です。

### 《全数報告の感染症》

二類感染症 結核 3件(①70歳代、男性 ②③ともに90歳代、女性)

五類感染症 後天性免疫不全症候群 1件(第22週診断分：20歳代、女性、無症候)

梅毒 1件(第22週診断分：40歳代、男性、無症候)

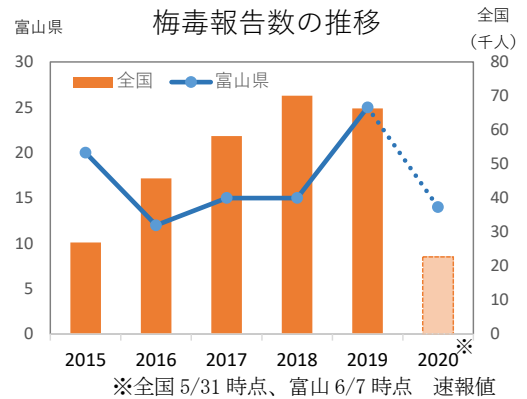
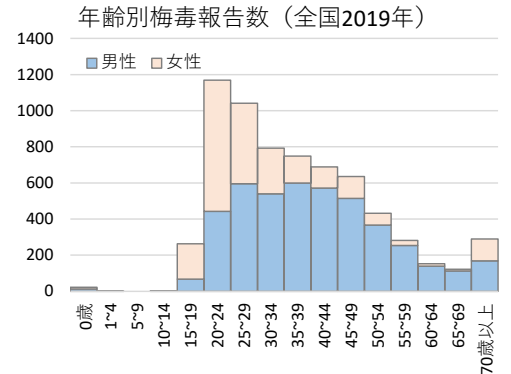
### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	2.10(↑)	1.69
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55(↑)	0.48
3位	突発性発しん	0.28(↓)	0.41
4位	細菌性髄膜炎	0.20(↑)	0.00
5位	咽頭結膜熱	0.07(↓)	0.10
6位	水痘	0.03(↑)	0.00

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます  
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

令和2年6月10日  
富山県感染症情報センター  
(0766-56-5431 直通)  
(0766-56-8142 細菌部)  
(0766-56-8143 ウイルス部)



○感染症発生動向調査報告状況（令和2年第23週 令和2年6月1日～令和2年6月7日）

分類	疾患	今週報告分（第23週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
指定感染症	新型コロナウイルス感染症							5	5	17	7	193	227
二類感染症	結核	2		1			3	5	2	16	4	17	44
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症									3		4	7
四類感染症	E型肝炎							2					2
	A型肝炎							8				1	9
	デング熱											1	1
	レジオネラ症							1		5	1	5	12
五類感染症	アメーバ赤痢											1	1
	ウイルス性肝炎											1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症							1		3	1	3	8
	急性脳炎							2				1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2		4	6
	後天性免疫不全症候群											1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症							1		1		3	5
	水痘（入院例）							1	2	2		2	7
	梅毒							2		2		10	14
	破傷風											1	1
	百日咳											24	26
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ							625	290	890	567	1,190	3,562
	RSウイルス感染症							2	5	26	4	35	72
	咽頭結膜熱	2 0.50					2 0.07	55	55	89	8	71	278
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2 0.50	1 0.33	11 1.38	1 0.25	1 0.10	16 0.55	94	161	1,005	159	1,226	2,645
	感染性胃腸炎	12 3.00	13 4.33	6 0.75	5 1.25	25 2.50	61 2.10	608	344	447	231	1,328	2,958
	水痘					1 0.10	1 0.03	28	29	47	16	87	207
	手足口病					1 0.10	1 0.03	18	1	13	4	40	76
	伝染性紅斑			1 0.13			1 0.03	9	26	28		156	219
	突発性発しん			2 0.25	1 0.25	5 0.50	8 0.28	14	13	80	28	55	190
	ヘルパンギーナ							30		8	1	3	42
	流行性耳下腺炎								3	3	4	6	16
	流行性角結膜炎								5	7	2		14
	細菌性髄膜炎			1 1.00			1 0.20			1			1
	無菌性髄膜炎										1	4	5
	マイコプラズマ肺炎							1	4	15	16	9	45
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									2	2		4
	インフルエンザによる入院患者（*）							42	5	28	73	53	201

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

\*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)～の集計です。